

【同窓会社会福祉セミナー プロジェクト開催報告】

本年度第1回「障害者福祉とソーシャルワーク」【5月埼玉会場】を開催しました。今回のオンライン参加者は80名と好評でした。



社大 同窓会

5月27日(土)社会福祉セミナーin埼玉

会場: 埼玉会館(埼玉県浦和市)

本日の催し物【4F】	
ツバメランカセツ・フルーノランドセル展覧会 1回目 10:00~12:30 / 2回目 13:30~15:00	4A会談室 10:00~11:00
日本社会事業大学同窓会 社会福祉セミナー 4B会談室 13:00~14:00	4B会談室 13:00~14:00

「合理的配慮の提供」とは
○障害のある方から何らかの配慮を求める
意思表明があった場合、「適量な負担」が
ない範囲で、社会的障壁を取り除くために
必要で合理的な配慮(「合理的配慮」)を
行うことが求められる
※「合理的配慮」の例
①「先回り」の配慮(通訳、手話、点字、録音など)
②「先回り」の配慮(通訳、手話、点字、録音など)
③「先回り」の配慮(通訳、手話、点字、録音など)

音声を字幕に変換しました



曾根教授

佐藤名誉教授

実践報告
久木元さん(常盤会)

ソーシャルワーカーを目指す者として成長していきたい 福祉援助学科 2年 山下裕寿実

講演後、私は3人の講師の先生方に質問をさせて頂きました。社会福祉セミナーという場で発言をさせて頂いたという経験は大きく、私の力になったと思います。

今回の『社会福祉セミナーin埼玉』全体を通し、福祉の先陣を切っている先生方や現場で支えている参加者の皆さんと接することが出来ました。それは私が目指すべき目標と対峙したことを意味していると思います。目標である方々と直接会い、会話を交わさせて頂いたことにより「この方たちに少しでも近づきたい。一人の人間として、ソーシャルワーカーを目指す者として成長していきたい」と強く思い、モチベーションを得ることが出来ました。

社会福祉セミナーに参加し多くのことを学び得た実感はセミナーを受けていた時に留まらず、その後の日本社会事業大学での講義を受講している時など日々の中においても先生方の話されていた内容を思い出し増しているのを感じています。ぜひ、多くの皆さんに参加して頂きたい、貴重で有意義なセミナーでした。



2023
vol.92

同窓会×大学
パートナーシップ推進



初めての在校生参加者でした

コロナ禍で3年ぶりに対面での通常行事・授業が再開されました



3月17日

学位授与式
(卒業式)

福祉の最前線へ

▶卒業生の皆様へのメッセージカード◀



(前列左から)宮下厚生労働省社会・援護局福祉基盤課長
澁谷清瀬市長 岩崎同窓会会長

伝えきれないほどの感謝を胸に

私たち後輩の大学生活の始まりは、オンライン授業による人と会えない日々でした。それから半年がたち、ようやく大学に通えるようになり始めたころ、学校生活がわかっているようで、分かっていない、そんな私たち後輩を先輩方は暖かく迎えてくださいました。それからというもの、授業やサークル、悩み事に至るまで、ことあるたびに私たちを支えてくださいました。そんな先輩方がかけてくださった言葉の一つ一つが、今も私たちの胸に刻まれています。しかし、先輩方にとって、私たちが入学した時期というのは、葛藤の中にいた時期だったのではないかと思います。食堂でご飯を食べた日々、文化祭に張りきった日々、授

業のために教室で過ごした日々、そんな当たり前の学校生活が失われ、大学が本来あった活気を失った姿に心を痛み、オンライン授業に戸惑いながらも、会ったこともない後輩に頼りにされる。そんな日々は楽しい思い出ばかりではなかったと思います。

さて、これから先輩方が進んでいく社会は、激動の時代を迎えているかと思います。以前収まらない感染症の流行、少子化・高齢化に伴う人口減少、毎日暗いニュースばかりが目につきます。ですが、そんな厳しい時代の流れも、先輩方ならばきっと乗り越えて行くと思います。なぜそう思うのかというと、それは私たち後輩が、先輩方の言葉に何度も救われてきたからです。そして、その言葉の一つ一つは、先輩方が悩み、苦しんできたからこそ、後輩にかけることができた言葉だったのではないのでしょうか。これから社会で生きる中、何度も壁にぶつかり、時に乗り越え、時に回り道をしながら、人生を歩んでいく。そんな先輩方が紡ぐ言葉は、きっとこれからの時代を生きる多くの人々を支え、救っていくと思います。



日本社会事業大学で学んだ知識や実践力、そして日々の思い出を胸に、これからの激流のような時代を乗り越えていくことを心より願っています。改めてご卒業おめでとうございます。

3月17日 在校生代表 宮東英維(学生自治会)



新入生サークル説明会

1年生・編入生オリエンテーション



4月1日



新入生オリエンテーション



4月5日

入学式

明日の福祉の
担い手はここから





11/23

同窓会×大学による 社会福祉セミナーin静岡



母校との連携による社会福祉セミナーを開催します。どなたでも参加いただけますので、ご友人、職場の皆さまなどお誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

【テーマ】 これからの時代のソーシャルワーク

一さまざまな福祉ニーズに対応できる地域共生社会の実現をめざして一

セミナー

地域共生社会の実現に向けた
重層的支援体制整備事業の活用

菱沼幹男氏

日本社会事業大学
社会福祉学部
福祉計画学科教授地域における多職種多機関連携
～「つるカフェ」の活動を通して～

鶴岡浩樹氏

日本社会事業大学
専門職大学院教授

実践報告

誰もが住みやすい地域づくり
～浜松市での取り組み～

久野真衣氏

浜松市社会福祉協議会
生活支援
コーディネーター

日時

2023 年 11 月 23 日 (木・祝) 13:30～16:00 (受付は13:00)

会場

静岡商工会議所静岡事務所会館4階404会議室

静岡市葵区黒金町20-8 / JR静岡駅北口徒歩3分

開催形式

会場とオンラインの両方で開催 会場参加30名 / Zoom参加50名
参加費無料、どなたでも参加できます

お申込方法

下記の「お申し込みフォーム」よりお申し込みください。

⇒<https://fs220.xbit.jp/b646/form2/>

＊お申込みいただいたメールアドレスにZoomによるオンライン参加ためのURL又はご来場の案内等をお知らせします。

「同窓会HP」からも申込みできます。⇒<http://jcsw-alumni.com/>

お申込期間

9月15日から11月15日まで



スマホ相談会を開催！学生が活躍しました

詳しくは5ページの地域活性化
プロジェクトの記事をご覧ください

【参加者からのコメント】

身近にスマートフォン操作について聞ける人がいなくて困っていた。親身になって相談に乗ってくれて助かった。

【学生からのコメント】

1対1でじっくりお話ができて楽しかった。大学で高齢福祉分野について学んでいるので、この経験を活かしていきたい。

生協組織部

「生協組織部」
って？

大学生協に加入している学生の生活をより良くしたいという思いで活動しています。新入生冊子やちょっばや開催、大学準備説明会の開催、PC講習会、他大学生協との連 携や店舗活動を行っています。



生協組織部の頭文字「S」のポーズ！
名前が変わったらどのポーズにしようか考え中です...

大学生協との橋渡し。 社大生目線で活動を盛り上げたい!!

生協組織部の
主な活動メモ

- ◆大学入学準備説明会開催
- ◆新入生冊子
- ◆ちょっばや
- ◆東京ブロック生協セミナー参加・生協理事会
- ◆学祭出店etc

2022年6月の学祭
ヨーヨー釣りと飲料販売
大人気でした！



活動写真



2023年1～3月で開催した大学準備説明会
新一年生の入学前の不安を解消することが
できました！



2023年3月のちょっばや
3年ぶりの対面開催は大成功でした！



2023年4月のサークル説明会
新1年生11人獲得です!!

これからの活動について

残念ながら大学生協が今年度で解散になりますが、生協組織部は来年度から学生生活向上委員会として活動していきます！

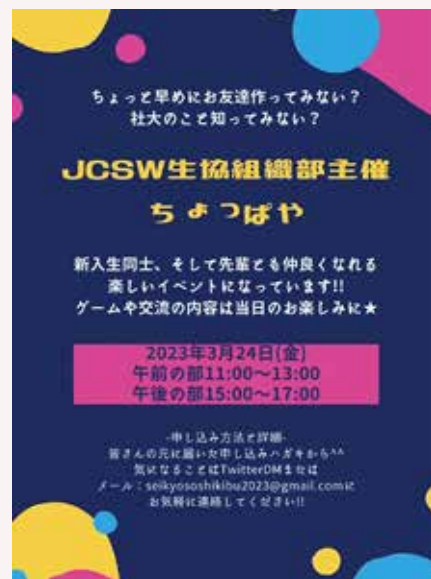
名前は変わりますが既存の活動をなるべく残してこれからも日本社会事業大学の学生がより良い学校生活を送ることができるように努めていきたいと考えています。

▶皆様へのメッセージ

コロナ禍の制限がゆるくなって部員が増えましたので、2022年秋から活動が活発になりました！新たに動き出した組織部と一緒に活動しましょ～★ 代表 鳥居 和



2023年7月七夕企画を店舗閉店前に記念として行いました！ みんなの切実な願いがたくさんです☆



母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

学生の発想活かし 安心して暮らせる地域を目指す 『地域コミュニティ活性化プロジェクト』

少子高齢社会が進展する中で、JKK東京（東京都住宅供給公社）の住宅では、高齢化による自治会活動への参加減少など、地域コミュニティの活性化が課題となっている。このプロジェクトは、大学と直線距離で約1kmと近接している東久留米下里住宅（東京都久留米市）における大学とJKK東京による地域コミュニティの活性化プロジェクトである。これまでの学生の実践を紹介する。（※記事、写真については、JKK東京のホームページから一部抜粋）

ご高齢者が安心して暮らせるように防災訓練に参加し、 地域住民との交流を深める



AED訓練



自治会役員の皆様と学生

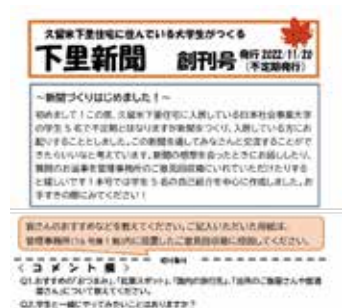
2022年11月20日（日）、住宅自治会による自主防災訓練が実施され、同住宅に居住している学生3名を含め55名が参加した。防災訓練は「火災・救急通報訓練」「火災・救急通報訓練」「AED・胸骨圧迫訓練」の4つのメニューが行われる本格的な訓練で、学生も他の入居者の方に混ざり積極的に参加。

【参加した学生からのコメント】自分の住んでいる住棟以外の方とも交流できて良かった。若いからこそ、率先して活動に参加していきたいと思った。
【住宅自治会からのコメント】「参加してくれた学生は若いのにしっかりしていて、頼もしい。高齢化が進む住宅において、こういった取り組みは意義がある。」と今後の活動に期待を寄せていただいた。

JKK東京と大学が連携協定
日本社会事業大学と東京都住宅供給公社（以下JKK東京）は、地域コミュニティの活性化及び学生の人材育成を目的とする公社賃貸住宅及び周辺地域の活性化に係る連携・相互協力に関する協定を令和3年4月13日に締結。
この協定に基づき、久留米下里住宅において、住宅自治会との交流促進など地域活動を行う学生の居を支援し、地域に根ざした活気あるコミュニティの形成を共に目指すことになった。



学生新聞を発行！ 参加者に配付しました



訓練終了後には学生から参加者に自治会の用意したお弁当と学生新聞「下里新聞」を配付した。下里新聞は「地域交流のため何かできないか」と考えた学生の発案により発行され、創刊号では学生の自己紹介を中心に記事が作成されている。読者からのご意見を募るコメント欄をつくり、双方向のやりとりができるよう工夫されており、早速、居住者の方から「楽しかった。次の発行はいつですか。とても楽しみにしています。」といった問い合わせも来ており好評です。今後も居住者のコミュニケーションツールとして発行予定である。

スマホ相談会を開催！ 学生が活躍しました スマホ相談会が始まった経緯

2023年2月1日（水）コミュニティサロン（集会所）で高齢の方対象のスマホ相談会が開催された。この相談会は「スマートフォン操作に苦労している人が多い」との声を受け、JKK東京が開催したもので、学生が相談を受けて困っていることや悩んでいることを一緒に考えた。

相談会の具体的な内容

当日は17名の方が参加。「LINEの友達を管理したい」「アプリで動画をみたい」「文字を大きく表示したい」など多岐にわたる相談が寄せられた。

参加者の中には、スマートフォンの説明書を持参される方やメモを片手にされる方もいて、高齢の方のスマホの疑問を解決するだけでなく、同じ住宅に暮らす高齢者と学生たちが交流する貴重な機会となった。

地域のひとふれあい 心を通わせながら

このプロジェクトの取り組みはまだ始まったばかりであるが、学生たちもアクセスの良い「東久留米下里住宅」での快適な学生生活を送りながら、高齢化傾向にある住民の方

大学と近接している 「東久留米下里住宅」

アクセス：西武池袋線の「清瀬」駅からバス約13分「下里団地」バス停徒歩1～5分。築年数約48年の東京都住宅供給公社賃貸住宅である。全18棟、住宅戸数は683戸。2DK～3Kの間取りで、1室の広さは約35～43平方メートルである。

現在、日本社会事業大学学生11名（1年生3名・2年生3名・3年生3名・4年生2名）が入居している。



下里住宅に住む学生たち。一番左が4年の東方慎太郎さん

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

コロナ禍での同窓会活動 ～2022年度～

いまだに厳しい状況ではありますが、さらなる工夫で活動を実施

新型コロナウイルス感染症が国内で満延し始めたのは2020(令和2)年2月から。以降この3年間はコロナ禍一色で私たちの日常生活が大きく制限されてきました。今3年振りに生活が通常の状態に戻りつつある現在、同窓会活動も徐々に対面での交流を再開させながら、オンラインも併用し、さらなる工夫をしながら活動をしていきましょう。

ちばAネットよりSURPRISEなお知らせ

NPO法人ちばAネット・日本社会事業大学同窓会千葉支部 共催
管理職・職員向けセミナー
「福祉事業の未来を拓く」
 講師: 株式会社ドットライン 代表取締役 兼 グループCEO **垣本 祐作氏**
 ・日時 令和5年2月10日(金) 16時00分～18時00分
 ・場所 千葉市文化センター セミナー室
 (千葉県千葉市中央区中央2丁目5-1)
 ・参加費 無料(先着80名まで)

- プログラム
 開会の挨拶 16時00分～16時10分
 記念講演(垣本氏) 16時10分～17時40分
 質疑応答 17時40分～17時50分
 Aネットからのお知らせ 17時50分～18時00分
 (懇親会 18時30分頃～ 近隣飲食店にて予定)
 ●参加方法
 下記URL(QRコード)のページで
 必要事項を入力して下さい。



Q.「NPO法人ちばAネットと共催企画」
 で2月にセミナーを開催されました。
 ちばAネットは、千葉県内の就労継続支援A型事業所を運営する事業者の団体ですが、この団体の代表を加藤裕二千葉同窓会支部長(社会福祉法人オリーブの樹理事長)が務めている関係で共同セミナーとしました。

私は障害福祉サービス事業に従事していますが、改めて振り返ってみるとコロナに始まりコロナに終わった3年間でした。千葉同窓会も、前回の2018(平成30)年7月の支部セミナー(33名が参加)以降は交流が難しい状況が続いていましたが、コロナが少し落ち着き始めたことで活動を再開したいとの思いがありました。

《千葉》から

四年振りに、
セミナー開催!

千葉同窓会の
和田幸成事務局長に
お聞きしました
Q. 千葉同窓会の状況は
いかがですか。

《沖縄》から

リモートによる
研修会を充実

沖縄県同窓会の
上地 武昭支部長から
の報告です

沖縄県支部(沖縄原宿会)では、コロナ禍のこともあって、リモートによる研修会の充実を図っています。定例会は、5月、7月は県内福祉実践者の報告と意見交換。9月、11月、1月は離島における地域実践についての報告。計5回をオンラインで。

最後の3月「公開研究会」では大橋謙策先生の講演会をオンラインで行いました。(活動経費については、同窓会五味基金からの助成)

分野や活動・学問領域を越えて
学びの輪を広げています

この公開研修会への参加者は130名余でした。

Q. 開催にあたりご苦労されたこと・振り返ってのご感想などをお聞かせください。
 今回同窓会員にも案内しましたが、当日は平日で、あいにくの雪模様でもあったため参加者70名の大半はAネットの方でした。(懇親会への

Q. 垣本祐作さんの「福祉事業の未来を拓く」記念講演は好評でしたね。

垣本さんは、日本社会事業大学2009年卒業(学部49期)の千葉県内で急拡大されている福祉ベンチャー企業「ドットライングループ」の代表者です。



こういう時期こそ研修は大事です!



地域の「困った」を「ありがとう」に変える

2022年度 沖縄原宿会 公開研究会
 主催 沖縄原宿会(日本社会事業大学沖縄県支部)
 共催(予定) おきなわ地域福祉研究会
 協賛(予定) 沖縄県ソーシャルワーカー協議会
 後援(予定) 沖縄県社会福祉協議会
講師 大橋 謙策 先生
 公益財団法人テクノエイド協会理事長
 NPO 法人日本地域福祉研究所理事長
 日本社会事業大学名誉教授
参加無料
 オンライン開催 Zoom
 開催日時
 2023年
 3月21日(火曜日)
 13:30～16:00
 ～テーマ～
子育ての社会化及び子育てのシステム化と社会福祉・教育の課題
 申込方法

同窓会員参加者は数名ありました。コロナ感染が大幅に減少し、日常生活が平常に戻りつつある中で、研修実施に向けての取り組みを再開予定です。

たが、同窓会のホームページに掲載いただいたこともあって県外からも10名の参加がありました。
 2023年はオンライン定例会の継続と対面による公開研修会の実施を考えています。

2023年度 幹事会報告

2019年度までの「対面による幹事会」を再開

◆2023年度事業計画

日本社会事業大学同窓会の組織は1976(昭和51)年4月再建され、2026(令和8)年に50年(母校は創立80周年)を迎えるが、清瀬年代同窓生の参加が少ないといった世代交代の問題やコロナの長期化による在校生の教育環境と同窓会活動への影響もある中、同窓生はじめ教職員や在学生その関係者一人ひとりに「社会の福祉誰が任ぞ」が問われる時代が再来している。

同窓会は、社会福祉の実践者として「忘我の愛と智の灯」の校歌の下結集し、卒業生同士での活動だけでなく、在校生とも一緒になって今後も社大教育と実践をしっかりついでいく。

実習現場の提供や就職支援、そのための卒業生のネットワークづくりをさらに推し進めるため(1)同窓会活動の活性化(2)卒業生と在校生との交流を通じた支援・同窓生間の交流の促進(3)社会福祉セミナーの開催による大学とのパートナーシップの推進等々。同窓会活動の課題解決及び活性化に向けて取り組んでいく。

◀同窓会活動強化のためのキーワード▶

同窓会総登録数 17,635人 清瀬年代(入学者) 9,450人		会報送付数 7,900部 同窓会の取り組みを もっと身近に
就職などの在学生支援 福祉現場で活躍する OB・OGとの交流会 同窓会支部「就活全国フェア in社大」情報コーナー設置	日本社会事業大学 同窓会	会費納入者(約1,300人) 同窓会基盤の強化 若い世代の参加推進
社会福祉セミナーの共催 同窓会 × 大学 パートナーシップ推進 創立80周年に向けた取組	修学困難学生に対する支援 五味基金の活用 JCSWネットワーク 職場体験等応援制度の活用・周知	大学広報との連携 母校教育力の向上を目指して 大学講座への参加、協力

大学とのパートナーシップの推進/母校・在校生への支援

(1)社会福祉セミナーの共催 本セミナーを開催することにより、同窓会活動の活性化と母校の価値向上を図っていく。【第1回】5月27日埼玉セミナー 【第2回】11月23日静岡セミナー

(2)福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会 ZOOMによるオンライン開催。同窓会支部「就活・全国フェアin社大」情報コーナーの設置

(3)JCSWネットワーク職場体験応援制度 在校生の就職活動や支部セミナーへの交通費等経費の助成(上限額1万円)

(4)同窓会「五味基金」による修学困難学生に対する奨学金支給

◆役員改選

同窓会ホームページの「同窓会役員等一覧」をご覧ください。

先着10名様に

**A 同窓会キャラクター
フリクション蛍光ペンセット
(3本入)プレゼント**

**B 同窓会特製の記念品
「木製ブック型印章ケース」
プレゼント**

抽選で3名様に

校章とアガベ像が彫刻されています

住所・氏名及び「蛍光ペンセット」と「印章ケース」の希望別を次のあて先までご連絡ください。

〈郵便の方〉 〒204-8555 清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学同窓会

〈FAXの方〉 042-496-3051

〈E-mailの方〉 kouyu@jcsu.ac.jp

2022年度 日本社会事業大学同窓会収支計算書

2023年度 日本社会事業大学同窓会予算

収入の部		(単位:円)
科 目	2022年度決算額	2023年度予算額
会費収入	4,080,704	4,500,000
入会金収入	0	30,000
雑収入	239,510	50,000
前年度繰越金	4,595,155	3,282,935
合 計	8,915,369	7,862,935

【収支差引額】

8,915,369 — 5,632,434 = 3,282,935
(収入決算額) (支出決算額) (翌年度繰越額)

◆ 2022年度 一般運営基金現在高 21,480,350

◆ 2022年度 五味基金現在高 14,440,107

支出の部

科 目	2022年度決算額	2023年度予算額
会議費	196,000	250,000
委員会活動費	46,900	100,000
人件費	451,550	700,000
支部強化費	210,440	500,000
機関誌等発行費	2,532,409	2,600,000
支部出張費	7,800	250,000
通信運搬費	120,406	150,000
学内学会助成費	0	100,000
ホームページZOOM関係諸費	99,110	200,000
慶弔費	5,038	50,000
国際交流推進費	0	50,000
卒業記念品費	222,780	250,000
新規事業資金積立	1,500,000	0
事務局活動費	240,001	300,000
予備費	0	2,362,935
合 計	5,632,434	7,862,935

PHOTO NEWS

3月25日

第2回顧問・正副会長・運営委員等合同会議 /法人・同窓会意見交換会



大学とのパートナーシップの推進等について意見交換しました

6月24日



「就活・全国フェアin社大」情報コーナーを設置しました



2023年度幹事会

“母校・在校生への支援”のため 会費納入にご協力を

同窓生の皆様には会報に同封されている「同窓会年会費」納入用紙をお使いいただき、同窓会の学生教育支援などへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

同窓会会長 竹田幹雄



スマートフォン決済ができるようになりました

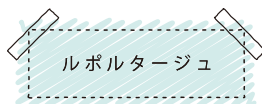
今までと同じ振込用紙で郵便局やコンビニでお振り込みされる他、スマートフォン決済ができるようになりました。※「スマートフォン(アプリ決済)」をご利用の場合は、振込用紙裏面をご確認の上ご利用ください。

だれもが、幸せになれる居場所作りを



この業界にいてもなかなか関わらない仕事、しかしそこには確実に日本における福祉の問題が見え隠れています。今回は

手伝いを行っています。始めまして、更生保護施設にて補導員をしています。大須賀史紀と申します。「更生保護施設?」「教科書では勉強したけど、何をしているところ?」と思う方が多いのではないのでしょうか。更生保護施設は一般に生



**更生保護のお仕事に
関わられていますか、
実際の仕事内容は?**

大須賀 史紀
(おおすか ふみのり)

学部60期
(2020年卒)



1997年静岡県袋井市生まれ。2021年日本社会事業大学福祉計画学科卒業。同年4月更生保護法人千葉県県庁性会入職。趣味、特技、最近ハマっていること:お散歩、夜景撮影、雲を眺めること、写真を撮ること。

少しだけ私の仕事を紹介させていただきます。

更生保護施設について

まず初めに更生保護施設とは、主に刑務所からの仮釈放(刑務所にいなければいけない期間だが出所の許しを得たもの)や少年院からの仮退院(少年)で身寄りがなく、帰る場所がない人たちが向ける施設です。衣食住の提供を行い、本人が仕事や適切な機関とのつながりを持ち自立するため、土台作りをする場所になります。

私達も自立が円滑に進むよう仕事の紹介や行政などの手続き支援、自立のための住居に関する支援など日常的なアプローチが多くあります。そのなかでも、悩み相談や不安解消などの相談にのることもあり、私はここに充填を置いて支援を行なっています。特に、罪を犯し私の施設に来る人は孤独な人や自分一人では解決することが苦手な人が多いです。何気ない話が本人にとって心が落ち着き社会に出るときに一歩踏出す力となります。

この分野の仕事を目指した理由

話し忘れていました、私がこの仕事を始めたきっかけ。それは私が小学生の頃、秋葉原の通り魔事件(東京・秋葉原の歩行者天国で2008年に起きた無差別殺傷事件)が起きたときに衝撃を受けたからです。事件そのものはとても許せることではなく、起きてはいけないことが起きたのだなと思ったのですが、それと同時にメディアや家族が

本人だけが悪いと主張することに気持ち悪さと違和感を抱きました。本人に何かしら解決できない問題、他人を頼れない環境があったのではないかと思い私はこの分野に携わりたいと思うようになりました。それから、どうすれば社会の孤独や犯罪の背景にあるものを取り除くことができるのだろうか、また解決するための場所はあるのだろうかと考え現在に至っております。

更生保護分野に携わりまだ年数は短いです、私は人が心を豊かにして、犯罪を犯した人もそうでない人も幸せになれる居場所を作りたいと思います。

学生時代はさまざまなことに チャレンジされましたね

大学時代には、サークル活動を5つ掛け持ちしていました。具体的には、演劇研究会、華道部、ちろろ、E.T.O、ボラセン、社大BBS会です。そのなかでも、今の仕事につながり力を入れていたのが「社大BBS会」でした。社大BBS会では会長をしていました。活動としては、月1回の研究会、少年院見学またカ

レーの会(非行を犯した少年と一緒にカレーを作って食べる)という活動が主であり活発な活動ができていました。

そんなとき、当時ボランティアで通っていた清瀬の子供食堂の福本さんに「君も子供食堂やってみたらどうだい」ということで声をかけられました。この言葉がきっかけとなり、BBSの活動として子供食堂を始めました。活動としては月2回日本社会事業大学の介護棟で学生メン

バーで行っていたもの。もう一つは地域の集会場と連携して行っていた2箇所の活動です。

その後も私たちの子ども食堂はクローズ型(固定の子を対象とする)で活動を続けてきました。たが、今般のコロナ禍の中



で活動が止まってしまっている。思うような活動が出来ていないのが現状です。私自身は現在関わりをもっていないのですが、後輩達がガンバってBBS会の活動を続けています。

BBS活動で学んだ人材育成の大切さ

BBS会を行う中で私が学んだことは、やはり人材が大切。組織を作るうえで人が育っていく環境を作ることが大切なのだということ。現在の仕事でも、このことを活かして対象者に対していかに成長を促し、信頼ができるかということをもとても大切にしています。

今後私の法人施設の建て替えなどがあり忙しい時期が差し迫ってきています。そんななかでもBBS活動など外の活動にも積極的に関わっていければと考えています。そこには、仕事だけでは身に付けることの

できない、視点や新たな人との触れ合いがあります。私にとつての学びの場であり、リフレッシュの時間にもなるためとても大切にしています。

今後の活動と抱負・在校生の 皆さんへのメッセージ

この3年のコロナ禍で母校日本社会事業大学の学生活動が乏しくなつてしましました。いくつかのボランティア団体やサークルが消滅してしましました。長い間続けていた活動がこのコロナ禍で活動が制限され、後を継ぐメンバーもいなくなつてしまいい結果として活動が続けることができなくなつてしましました。今回コロナ禍が開けて自分達にできるか、そう考えたときにもう一度他者との交流の場が必要なのではないかと思ひ、5月にポツチャを通して交流会を開こうと思ひ、ボラセンのメンバーと活動を行いました。結果的に一人しかこなく結果としては少し残念でしたが、ボラセンメンバーもコロナ禍で顔合わせが出来てなかつたので今回の交流会が初めての顔合わせとなりました。そのため、今回のポツチャ交流会は良い結果となりました。

